

東 都 大 学 図 書 館

通信幕張キャンパス 第13号

【編集】幕張分館司書 井本紗織

【編集協力】幕張分館図書館運営委員会

看護学科…………阿部由喜湖

理学療法学科…舟橋久幸・平野康之

臨床工学科…………土井根礼音

先生のオススメ図書 『うまれるものがたり』

臨床工学科 助教 肥田泰幸

小生の推薦図書『うまれるものがたり』は写真+文章で綴る写真集です。妊娠・出産をめぐる6つの家族の物語を、カメラマンであり、自身も3人の子の母である著者により撮影・執筆されています。印象的なビジュアルで惹きつけられ、親しみやすい文章で素直に共感を得ることができ、心をつかんで離さない物語仕様の構成となっていますから、パラパラと絵本を読むような感覚で、流れるようにストレスを感じず読破できます。

生や死の瞬間というものは、誰にとっても例外なく衝撃的なものです。特に血を見るのが苦手な人にとってはハードルが高いかもかもしれません。小生もその昔、初めて妻の出産に立ち会いましたが、出産の直前で分娩室を退出した覚えがあります。しかし本書は柔らかな雰囲気の写真ばかりでその心配はありません。ただ、内容では死産というつらく苦しい現実を受け入れなければならない場面があることにも触れられ、命の尊さを考えさせられます。

還暦を迎える小生から見れば、人生は過ぎてしまえば「あっ」と言う間でした。しかし、学生さんから見ればこれから長い長い未来への道が待っています。それもまた間違いないことです。みなさんは将来医療にかかわる人間として、もしかすると他の職業の方より多くの死に触れることでしょうか。無力感にさいなまれたり、やるせなさに落ち込んだりするかもしれません。そんなときにはこの本を手にとって、命は奇跡の連続でこの世に生まれ落ちるのだということを実感してもらえればと思います。これからの歩みに人の心に寄り添う東都大学幕張ヒューマンケア学部の理念と共に、命の尊さを再認識する一助となれば幸いです。

『うまれるものがたり』 繁延あづさ写真・文 マイナビ出版 2015年 598.3/S 【開架】



Pick Up! ～小説で入門 現代社会のあれこれ～

少子化対策のため「抽選見合い結婚法」が施行された日本。非モテ青年は俺らの時代だとばかりに万々歳、田舎に暮らす看護師は都会に出るチャンスと単身東京へ。

結婚して「夫婦」になり、子どもが生まれ「家族」になる。それは本当に当たり前のことなのではないでしょうか。

『結婚相手は抽選で』 垣谷美雨著 双葉文庫 2014年
913.6/K 【開架】



私たちの生活には欠かせないものになってしまったスマートフォン。先日の通信障害では大変だった人もいるのでは？

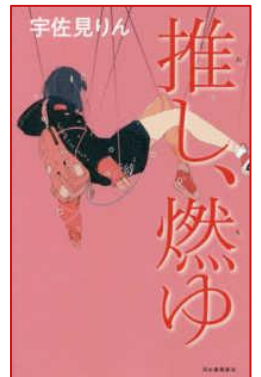
こんなタイトルですが、実はスマホを落としたのは主人公の恋人！自分はしっかりしていても、身近な人のセキュリティが甘いと自分も巻き込まれてしまうかもしれません……逆もまた真なり、ですが。

宝島社文庫『スマホを落としただけなのに』 志駕晃著 宝島社 2017年
913.6/S 【開架】

2021年、流行語大賞に「推し活」がノミネートされました。「推し活」とは自分が好きなもの(=推し)を応援する活動のこと。いまや「推し活」用のアプリも登場し、もはや一つの経済圏を成していると言っても言い過ぎではないでしょう。

誰かを応援することによって自分を保つというのは決して悪いことではありません。しかし、のめりこみ過ぎると思わぬ事態に発展するかも……。

『推し、燃ゆ』 宇佐見りん著 2020年 河出書房新社
913.6/U 【開架】



多くの大学生が壁にぶつかる就活。どうすれば合格できるのかもわからず、何の説明もなく判で押したような「お祈り」に自分を否定され続ける。タイムリミットが迫る中で道が閉ざされるような絶望感から、うまくいっている「誰か」の粗を探して、ホッとしてしまう。そんな風になってはいませんか？

あまりにもリアルすぎるので、読む際はどうぞご注意を。

朝井リョウ 『何者』(新潮社刊) 2012年 913.6/A 【開架】

